

平成29年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果の公表

本校では平成29年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果を公表いたします。

教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。

また、保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、学校教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思います。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、6年生は全国学力・学習状況調査、5年生は佐賀県学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は国語、算数共にA問題、B問題という2種類の調査で成り立っています。おおむねA問題は「知識」に関する問題、B問題は「活用」に関する問題です。

結果を受けての本校の分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、ご覧ください。

1 児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5 年時	6 年時		5 年時	6 年時	
		A	B		A	B
H25 入学 現 5 年	59.2 (0.96)			66.7 (1.02)		
H24 入学 現 6 年	62.3 (0.94)	66 (0.88)	44 (0.79)	71.4 (1.06)	70 (0.88)	41 (0.93)
H29 正答率の全国比		(0.88)	(0.77)		(0.89)	(0.89)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率(%)、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H29正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

1 学習状況調査の結果から

6年生の全国学力学習状況調査の結果では、国語科と算数科のA問題（主として知識）B問題（主として活用）ともに県平均や全国平均を下回っていた。特に、国語科のB問題において差が大きかった。一方算数科の県や全国との比較では、A問題（0.88）に対し、B問題（0.93）とB問題の方が高い傾向にあり、既習の知識を働かせて問題解決を行う力が以前より高まっていた。

領域別に見ると、国語科では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」に課題が見られ、「互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合う。」や「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く。」「目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む。」などの正答率が低く、「目的や意図に応じて」という点に意識した指導がさらに必要である。算数科では、「数と計算」や「数量関係」の内容で課題が見られた。計算のやり方や答えの出し方など技能については良かったものの、「乗法の問題場面を数直線で表すこと」また、「任意単位を用いての測定」「未知の数量を□を用いて、問題場面を式で表すこと」などで正答率が低かった。

5年生の県学習状況調査の結果では、算数科では県平均を若干超えているものの、国語科では県平均をやや下回っていた。どちらも県平均との差は小さく、ほぼ県と同程度と考えられる。国語科の内容で見ると、「話す・聞く」「書く」領域では、県よりもやや高かったものの「漢字の書き」や「語句に関する知識」など「言語に関する知識・理解・技能」がやや正答率が低かった。

2 意識調査の結果から

意識調査の結果では、県平均に比べ「決まった時刻に起きる、寝る。」「朝食を食べる。」と答えている児童の割合が高かった。また、地区の行事に進んで参加する児童は、5・6年ともにほぼ100%に近く、「人の役に立つ人間になりたい。」や「困っている人を助けたい。」と思っている児童の割合も高い。「自分には良いところがある。」や「物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある。」の項目でも高く、成就感や自己肯定感を感じている児童が多い。

学習では、塾や習い事が少ないため学習時間は県と比べてあまり長くはない。また復習中心で、予習をしている児童の比率が少ない。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 1 「西部型授業」を基本にしながら、主体的な問題解決学習に取り組ませる。
「西部型授業」の流れに沿いながら、授業作りを行う。特に次の点に留意する。
① 「めあて」の提示 ②ノート指導・ワークシートの工夫（書く場の保障） ③話し合い活動
④ 「まとめ・振り返り」の設定
国語科や算数科、他の教科においても、自分の考えを書く活動を積極的に取り入れ書く力の育成を図る。
また、書く活動において自分の考えをしっかりと持たせ、それを発表に生かしながら一人ひとりの話す力を高めグループや全体の場での協働的な学習を充実させながら「話す・聞く」態度の育成を図る。
- 2 学習の展開や、発問・板書等の工夫をし、授業に臨む。
【国語科】・・・単元のねらいを明確にした指導。単元に設定されている言語活動を確実に実施する。学習用語の習得と活用を図り、国語科における基礎・基本の力を身につけさせる。「読み」に課題が見られたので、特に説明文の読みの指導に力を入れ、話の中心を読み取ったり、大事なことをまとめて書いたりする力を身につけさせる。
【算数科】・・・ 「わかる」と「できる」をしっかりとつなげていく。答えを出すまでの過程を大切にし、図や表や式、言葉での説明力を高める。
既習事項を活用した自力解決力を大切にし、活用力を高める。
- 3 学んだ事を活用する場を作り出し、活用力を高める。
総合的な学習の中で、国語科や算数科で培った技能を意図的、計画的に活用させる。調べたことをまとめる際にはグラフや図表を活用させたり、多様な文章表現に慣れさせるため手紙、新聞作り、チラシ作り等に取り組ませたりする。

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 1 パワーアップ課題
活用力育成のために、発展的な問題や活用問題を週末の家庭学習の課題とする。（4・5・6年）
1回に1問程度を課題とし、しっかり考えさせる。その後、解き方や答え方について指導する。
- 2 家庭学習の習慣化や内容の充実を家庭と連携して取り組む。
①課題（読み、書き、計算）について職員間で共通理解を図る。
②日記など多様な書く活動の場を設定し、充実を図る。
③自主学習の奨励（週1回以上の取組）をする。
④タブレット（スマイル学習・eライブラリ）を利活用する。
- 3 学習のルールについて職員が共通理解し、学習への心構えや物構えについて全校で一貫した学業指導を行う。（チャイムの合図。筆箱の中味、姿勢、話型、聴型）
- 4 生活リズムについて調査し、起床・就寝時間、朝ご飯の摂取などの生活習慣のチェックを家庭と協力して行い、よりよい生活習慣を身につけさせる。